

## 6. 中米

### 中米の日本語教育の状況

中米全体の機関数は180機関(7.1%増)、教師数は765人(19.2%増)、学習者数は17,562人(1.1%増)となっており、大きく増加した前回(2018年度)調査から更に増加している。

各項目ともにメキシコの占める割合が高く、機関数では77.2%、教師数では80.0%、学習者数では82.9%となっている。

国ごとの前回調査比をみると、メキシコでは機関数15.8%増加、教師数26.7%増加、学習者6.4%増加と、いずれも前回調査に引き続き増加しており、プエルトリコでも全て増加という結果であった。一方、キューバ、ドミニカ共和国、ベリーズ、ホンジュラスでは減少となっている。

学習者数について教育段階ごとの割合をみると、初等教育3.5%、中等教育7.0%、高等教育14.7%、学校教育以外74.8%となっており、学校教育以外のカテ

ゴリの占める割合が最も高く、前々回(2015年度)調査から17.4ポイント増加した前回調査時の63.3%から更に11.5ポイント増加している。

オンライン授業実施率は、最大の機関数を有するメキシコで92.8%、その他の国・地域でも機関数が少ないとはいえ、ほとんどが100%となっており、中米全体でみて93.9%と非常に高い割合となっている。

日本語学習の目的をみると、上位2項目は「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」(90.6%)、「日本語そのものへの興味」(86.7%)で全世界と比較して非常に高い割合となっている。次いで「自国内での現在の仕事・将来の就職」(85.0%)の順で、その他の項目についても全世界と比べて同等あるいは高い割合を示しており、多様な目的で日本語が学ばれている傾向がみて取れる。

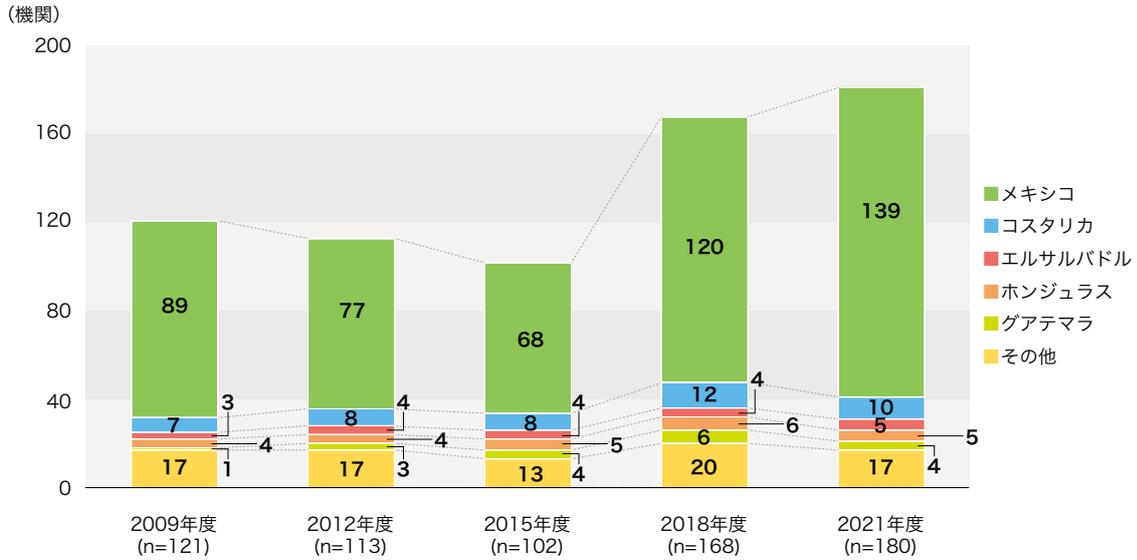
表2-6-1 中米における機関数・教師数・学習者数

(2021年度の学習者数順)

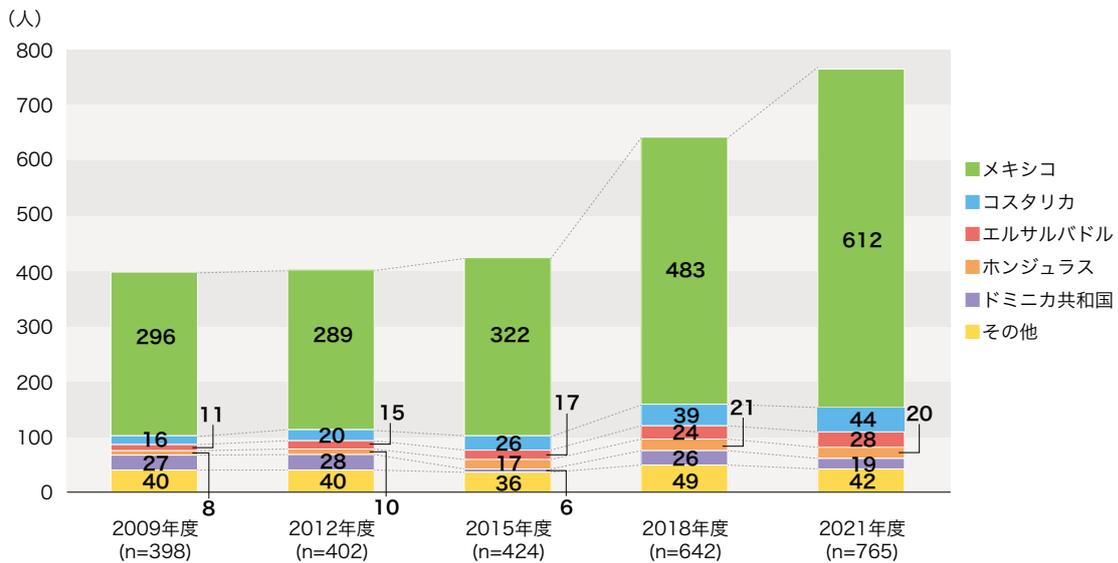
国・地域	2021年度								人口 (人)	2018年度		
	機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)	10万人あたりの学習者 (人)	教育段階の構成(学習者)(人)					機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外				
メキシコ	139	612	14,552	11.5	588	1,145	2,103	10,716	126,014,024	120	483	13,673
コスタリカ	10	44	829	19.3	0	0	0	829	4,301,712	12	39	892
グアテマラ	4	12	414	3.7	0	0	0	414	11,237,196	6	10	333
エルサルバドル	5	28	387	6.7	0	0	63	324	5,744,113	4	24	424
ホンジュラス	5	20	355	4.3	21	21	27	286	8,303,771	6	21	492
ジャマイカ	3	5	213	7.9	0	0	153	60	2,697,983	3	5	217
ドミニカ共和国	3	19	175	1.9	0	0	0	175	9,445,281	4	26	227
トリニダード・トバゴ	1	2	150	11.3	0	0	3	147	1,332,901	1	3	170
パナマ	3	6	140	4.1	0	15	25	100	3,405,813	3	6	132
プエルトリコ	2	2	139	4.2	0	0	121	18	3,285,874	1	1	50
ハイチ	1	4	108	1.3	0	54	54	0	8,373,750	1	4	36
ニカラグア	2	7	62	1.2	0	0	0	62	5,142,098	1	7	120
キューバ	1	2	28	0.3	0	0	28	0	11,167,325	4	10	574
ベリーズ	1	2	10	3.1	0	0	0	10	322,453	2	3	27
<b>中米全体</b>	<b>180</b>	<b>765</b>	<b>17,562</b>	-	<b>609</b>	<b>1,235</b>	<b>2,577</b>	<b>13,141</b>	-	<b>168</b>	<b>642</b>	<b>17,367</b>

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

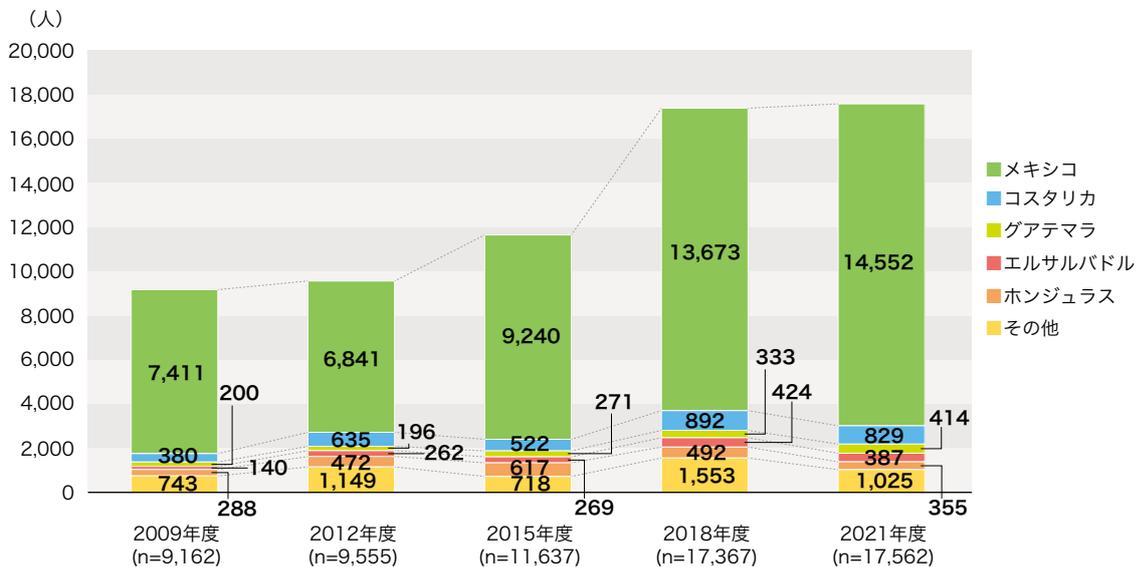
グラフ2-6-1 中米における機関数



グラフ2-6-2 中米における教師数



グラフ2-6-3 中米における学習者数



グラフ2-6-4 中米における教育段階別学習者の割合

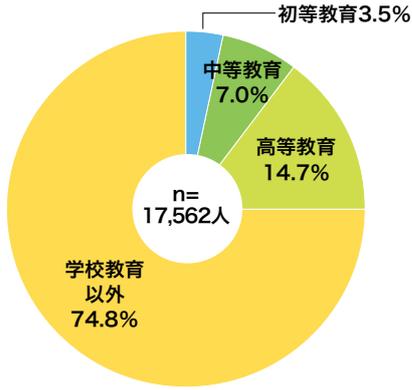
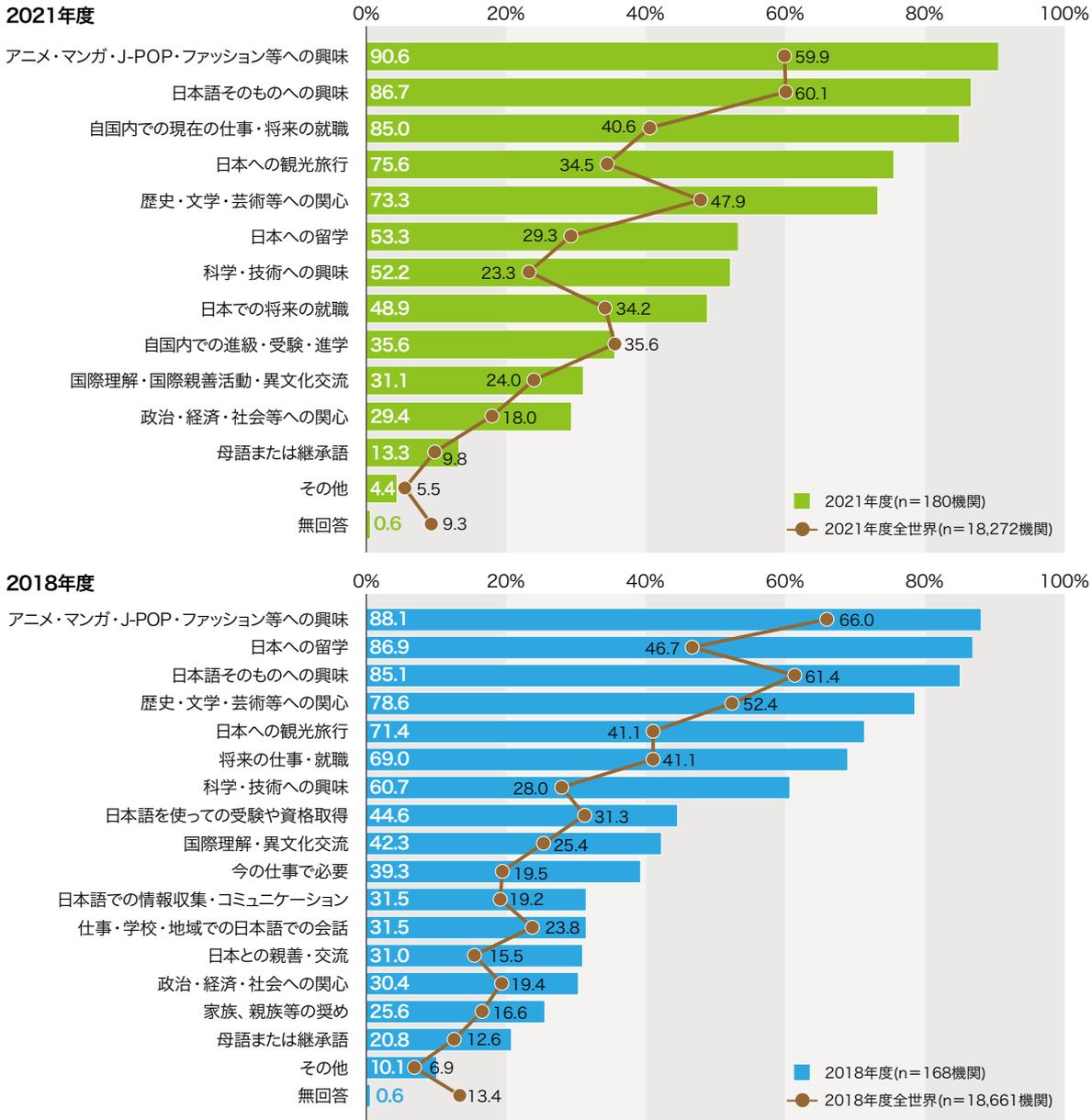


表2-6-2 中米におけるオンライン授業実施率

国・地域	国・地域 全体機関数	オンライン授業実施	
		(機関)	(%)
メキシコ	139	129	92.8
コスタリカ	10	10	100.0
エルサルバドル	5	5	100.0
ホンジュラス	5	5	100.0
グアテマラ	4	4	100.0
ジャマイカ	3	3	100.0
ドミニカ共和国	3	3	100.0
パナマ	3	3	100.0
ニカラグア	2	2	100.0
プエルトリコ	2	2	100.0
キューバ	1	1	100.0
トリニダード・トバゴ	1	1	100.0
ハイチ	1	0	0.0
ベリーズ	1	1	100.0
<b>中米全体</b>	<b>180</b>	<b>169</b>	<b>93.9</b>

グラフ2-6-5 中米における日本語学習の目的



## 各国・地域の動向

### 【メキシコ】

中米地域において日本語教育の規模が最大であるメキシコは、とりわけ学校教育以外が機関数・教師数・学習者数全てにおいて堅調に増加した。他の教育段階の多くが減少したため、メキシコ全体に占める同カテゴリの割合がさらに拡大し、機関数85.6%（前回調査73.3%）、教師数88.1%（同81.0%）、学習者数73.6%（同59.8%）となった。また、日本語非母語話者教師の割合は前々回調査49.7%、前回調査56.3%からさらに67.8%へと増加した。

高等教育段階では、前回調査の40機関から23機関に、17機関減少した。このうち約65%にあたる11機関が「一時的に授業を停止」と回答している。コロナ禍において授業オンライン化のための技術的あるいは財政的な問題のため、やむを得ずコースを中断したり、コース開講条件の厳格化により受講者が定員に満たず不開講となったりした。他方、大学の閉鎖により地方の実家に帰省した学生が在住地域の通信インフラが未整備なためオンライン授業の受講を断念する、オンラインコースへの拒否感（集中力の維持が困難、教師やクラスメイトと直接交流できない）等から受講を見合わせる学習者側の事情もあった。

州・地域の状況を見ると、機関数・教師数・学習者

数の全てにおいて最多なのは首都メキシコ市で、それぞれ国全体の約2割～3割を占める。さらにメキシコ州と合わせた「首都圏」としてみると、国全体に占める割合は機関数が29.5%、教師数が33.5%、学習者数が40.9%となる。これに次いで日本語教育の規模が大きいのは、自動車関連の製造業をはじめとする日系企業の進出が多いバヒオ地区（中部高原地域）で、国全体に占める割合はそれぞれ機関数34.5%、教師数34.6%、学習者数が26.1%である。首都圏とバヒオ地区だけでメキシコ全体の7割前後を占める。

2020年3月、メキシコ教育省による新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として、大学を含む全ての学校（私立大学を含め全国の約25万校、約3,300万人の児童・生徒・学生が対象）が1か月間一斉閉鎖された。幼稚園や民間の語学学校を含め、ほとんど全ての機関がオンライン授業へ移行したほか、オンライン授業に特化した日本語教育機関も出現したが、通信インフラ等の課題もあり、2021年度から多くの機関がオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式に移行し、中には完全に対面授業に戻した機関もある。

※州別の集計表（1-3a、1-3b）は、国際交流基金Webページで公開しています。